

平成 12 年度

事務システム基礎講習会

開 催 要 項

平成 12 年 7 月 11 日 ~ 13 日

社団法人私立大学情報教育協会
研 修 運 営 委 員 会

平成 12 年度・私情協研修等事業

- | | |
|------|---------------------------------|
| 7 月 | 事務システム基礎講習会 |
| 8 月 | 学内 LAN 運用管理講習会
授業情報技術講習会（東京） |
| 9 月 | 情報センター等部門研修会 |
| 10 月 | 事務システム研修会 |
| 11 月 | 事務部門管理者講習会 |
| 3 月 | 授業情報技術講習会（大阪） |

1．基礎講習会の目的

この基礎講習会は、初心者を対象にテキスト等による講習を行い、大学改革を支える情報化に関する基礎知識の修得を目指し、大学職員の資質向上に寄与することを目的とします。

2．受講対象者

加盟大学・短期大学の職員で、事務情報システムに関する基礎知識の修得を希望する方を対象とします。

既に基礎知識を修得されている方は10月に開催の「事務システム研修会」へご参加ください。

3．講習内容

私立大学の事務情報システムについて、以下の点を講義形式で学習します。(パソコン等による実習は行いません) 講義時間は1テーマにつき90分とし、講師は、研修運営委員会委員が担当します。

- (1) 業務プロセスの高度化とデータベース構築
- (2) プロジェクト管理とシステム運用のあり方
- (3) 事務システムを支えるこれからのIT
- (4) 大学におけるネットワークの戦略的活用
- (5) 情報倫理とプライバシー保護

4．事例紹介

これからの情報インフラ整備のあり方についての理解を深めるため、会員大学、賛助会員などによる事例紹介、技術動向の解説などを行います。

「携帯端末による学園の情報化」東日本電信電話株式会社

「次世代の戦略的情報システムのあり方」獨協大学

5．日 程

平成12年7月11日(火)～7月13日(木)

2泊3日間の合宿形式となります。

6．参加資格

加盟大学・短期大学の職員。

7．募集定員

240名程度

*参加希望者多数の場合には、会場の都合により参加者を調整することがあります。

8．参加費

26,500円(税込) (宿泊費は含まれません)

9．開催会場および宿泊

本講習会は合宿研修のため、参加者は全員下記ホテルへ宿泊していただきます。
(原則ツインルームで部屋割りは当方で決めさせていただきます。)

グランドホテル浜松

静岡県浜松市東伊場 1-3-1 TEL: 053-452-2111

交通：東海道新幹線「浜松駅」下車。

* 行き帰りの浜松駅よりホテルまでは送迎バスを用意いたしますので、利用下さい。

* バスの発車時刻、集合場所等については後日連絡いたします。

* 送迎バスを利用されない場合は、タクシーを利用下さい。

宿泊費 26,000 円(税込) (2泊5食、最終日の昼食代は含まれません)

* 宿泊費の支払いは、開催第1日目に参加者個人別にホテルへお支払いください。

10．申込方法

6月15日(木)までに、「参加申込書」を各大学で一括してとりまとめの上、下記宛郵送下さい。
(参加申込者についての必要事項は必ず全員分記入して下さい。)

送付先 〒102-0073 千代田区九段北 4-1-14 No.1 山崎ビル 4F
社団法人 私立大学情報教育協会事務局

11．参加者確定通知

参加者確定通知は6月末に事務連絡者宛に郵送あるいはFAXにてお送りいたします。

12．参加費の支払

参加費は、参加者確定通知を受領後2週間以内に、大学ごとに一括して銀行振込によりお支払い下さい。(参加費の振込先は参加者確定通知にてお知らせします。)

13．推薦図書

講習を受ける際に、用語等の知識について不十分と思われる方は、コンピュータやネットワークに関する用語集を持参下さい。図書名は特に問いません。なお、推奨図書として以下のものがあります。

情報・通信新語辞典	(日経BP社)
日経パソコン新語辞典	(日経BP社)
わかりやすいコンピュータ用語辞典	(東京, ナツメ社)
祝入門コンピュータ辞典	(ソフトバンク出版事業部)
ラジカルなコンピュータ用語辞典	(ソフトバンク出版事業部)
最新コンピュータ辞典	(西東社)
イラストで読むネットワーク入門	(インプレス社)
イラストで読むインターネット入門	(インプレス社)
イラストで読むソフトウェア入門	(インプレス社)

基礎講習会日程表

	1日目 7月11日(火)	2日目 7月12日(水)	3日目 7月13日(木)
7:00		朝食	朝食 チェックアウト
9:00		講義2	講義5
10:30		移動・休憩	アンケート記入
11:00		技術動向解説・事例紹介 企業技術紹介	閉会式
12:00	受付	昼食	11:45 終了予定
13:00	開会式 全体会	技術動向解説・事例紹介 大学事例紹介	
		移動・休憩	14:00
14:45	移動・休憩	講義3	14:30
15:15	講義1	休憩	16:00
16:45	チェックイン 自由時間	講義4	16:30
18:00	夕食・懇親会	夕食	
		フリーディスカッション	19:30

- 全体講演 -

「私立大学における情報化の新たな展開」

概要

今日、大学を取り巻く環境として、教育・研究のグローバル化・オープン化、情報公開などへの対応が話題となってきている。21世紀を目前に、大学が真に教育・研究の使命を達成するためには、これらの課題に対して何らかの取り組みを始めることが要請されてきており、それには、一つの方法として、教育・研究環境の情報化とそれらを支援する管理運営システムの情報化が考えられる。

そこで、今回は、大学の管理運営面における情報化のあり方を模索するため、学内LANによる戦略的な情報システムの考え方、各部門を横断する情報共有のあり方、大学の目標と職員個人との関わり方などを通じて情報の利活用の手法を見直し、業務改革を考える機会としたい。

本講演では、情報技術による業務改革を推進する企業等の担当者より、大学における情報化戦略や、より高度な情報活用を考える上で参考となるポイントについて、事例を踏まえて解説する。

- 講義概要 -

・業務プロセスの高度化とデータベース

講師：金子 勝信氏（大東文化大学管理部管理課長）

大学事務では、必要な情報を整理し、活用することが重要となります。個々に保有しているデータ（情報）だけではなく、部署あるいは学園全体で保有するデータ（情報）を利用することが望まれます。

本講義では、学園の共有情報として統合的に蓄積・管理された「統合データベース」の考え方、利活用の方法について、学園事務の「業務プロセス」をもとに解説します。

- 1) 大学の業務プロセスはどうなっているのか
 - ・学校法人経営
 - ・教育事業
 - ・収益事業
 - ・アドミニストレーション
- 2) 業務プロセスを図で表現するには
 - ・仕事を図式化して表現する方法
 - ・データフロー図で業務プロセスを書く
- 3) データベースの考え方
 - ・ポケット一つの原則とデータベース
 - ・データベースはみんなのために
- 4) データベースの作り方
 - ・データモデルを作る（論理設計）
 - ・データベースを定義する（物理設計）
 - ・データをロード（入力）する

5) 情報の利用と活用

- ・エンドユーザーコンピューティング (EUC)
- ・データウェアハウス

・プロジェクト管理とシステム運用のあり方

講 師：千葉 幸喜氏 (東北福祉大学企画課長兼広報課長)

各大学の業務内容、業務の進め方が、それぞれの大学の状況によって千差万別であるように、大学の事務情報システムやその構築方法も、個々の大学の特色や条件を反映したものが求められます。

本講義では、大学の実状に合わせて効果的な業務システムを開発・導入するための適切なプロジェクト管理手法や、導入後のシステムを安定運用するための運用保守体制のあり方について解説し、学内で実施すべき事柄と外部委託により効率化できる事柄などを理解します。

1) システム開発手法の種類と特徴、留意点

- ・開発手法の種類 (ウォーターフォール型、スパイラル型)
- ・開発プロセスの概要 (計画から運用まで)
- ・大学の事情に応じた開発体制の選択 (学内開発、外部委託 (部分委託、一括発注))
- ・パッケージソフトウェアの導入とカスタマイズ

2) 情報化プロジェクトの管理

- ・学内体制と役割 (利用者部門とシステム部門の協力)
- ・学外体制と役割 (外部委託で出来ること、出来ないこと)
- ・プロジェクトを成功に導くために
- ・外注管理のポイント

3) システム運用のあり方

- ・システム運用と利用者サービスのあり方
- ・安定した運用体制の構築
- ・外部委託による運用管理業務 (常駐とリモート)
- ・運用ルールの策定

4) システム監査のポイントと留意点

・事務システムを支えるこれからのIT

講 師：山田 憲男氏 (日本女子大学財務部電算課長)

オフィスオートメーションは年々着実に進み、今やワープロの使えない大学職員は少ないと思われます。パソコンもボールペンや電卓並みの文房具になってきており、コンピュータは、ホストコンピュータ至上型のシステムから、パソコン利用の分散システムに変化してきています。

本講義では、事務情報のシステムを支えるIT技術について、今後の動向を含めて分かりやすく解説します。

- 1) 事務処理をサポートするコンピュータ
 - ・巨象（メインフレーム）は生き残れるのか
 - ・サーバーマシンは本当に業務を担えるか
 - ・パソコンの躍進（いつまで続く右肩上がり）
- 2) オフィスへの新しい波
 - ・ネットワークコンピューティング
 - ・クライアントサーバーシステム
 - ・イントラネットとグループウェア
- 3) 今何を選択すべきか
 - ・学内開発か、アウトソーシングか
 - ・パソコンアプリケーションの正しい選び方
 - ・情報管理は誰がやる
- 4) これからの事務システム
 - ・WINTEL は世界を制圧するのか
 - ・UNIX や Mac の今後は
 - ・これからの大学職員が身につけなければならないコンピューターのスキルとは

．大学におけるネットワークの戦略的活用

講 師：杉町 宏 氏（立命館大学事務システム課長）

近年、大学において学内LANの基盤整備が急速に進展する一方、社会的にもインターネットの拡大・発展に目を見張るものがあります。こうした状況の中で、大学の教育・研究・事務の各分野においても、ネットワークの利用が日常的かつ不可欠なものとなっています。

そこで、本講義ではネットワークの基本的な仕組みを分かりやすく解説し、大学の教育研究活動を支援するための効果的な活用について理解していただくとともに、ネットワーク上の目に見えぬ脅威に対してどう対処すべきかなど、問題や課題、そして大学における基本的な考え方を示します。

- 1) ネットワークとは？
 - ・インターネットの正体
 - ・ネットワークの種類と特徴
 - ・ネットワークの利用価値
 - ・ネットワークの仕組み
 - ・イントラネットとエクストラネット
- 2) 事務におけるネットワーク活用
 - ・イントラネットによる総合的な事務システムの構築（データ処理から活動基盤へ）
- 3) ネットワーク活用上の留意点
 - ・ネットワークに潜む罠
 - ・ネットワークの運用管理の課題
- 4) 大学にとってネットワークとは？（現状そして未来）
 - ・教育
 - ・研究
 - ・管理運営、事務

．情報倫理とプライバシー保護

講 師：岸田 陽一氏（津田塾大学システムサービス室長）

今日の大学では、学内で流通する情報の大半がコンピュータシステムで管理されており、学生や教職員の様々な個人情報が取り扱われていますが、このような情報を管理する明確な基準を持つところは少なく、「漏洩」や「改ざん」、「破壊」等の危険度が高くなっています。

本講義では、情報社会の特質に触れながら、学内で取扱われる情報の保護と教職員の情報に関する意識向上について基本的な考え方を解説し、今後の課題について考えたいと思います。

- 1) 情報に関する犯罪や不正行為
- 2) 情報を管理するためのセキュリティ対策・ルールづくりと情報倫理に関する意識の向上
- 3) 個人情報の公開と情報保護のための学内体制

平成12年度事務システム基礎講習会

参加申込書

大学名 _____

事務連絡者氏名 _____

所属、役職 _____

所在地：〒 _____

TEL: _____ (直内) FAX: _____

	参加者氏名	年齢	性別	喫煙	所属及び役職名	†参加者の 所属部門	在職 年数	参加者のE-Mail address
			で囲んで下さい。					
1		歳	男女	有無			年	
2		歳	男女	有無			年	
3		歳	男女	有無			年	
4		歳	男女	有無			年	
5		歳	男女	有無			年	
6		歳	男女	有無			年	
7		歳	男女	有無			年	
8		歳	男女	有無			年	
9		歳	男女	有無			年	
10		歳	男女	有無			年	
11		歳	男女	有無			年	

†グループ分けの参考とさせていただきますので、下記の中から参加者の所属部門を一つ選びご記入ください。

1. 総務部門	6. 財務部門	11. 通教部門
2. 広報部門	7. 管財部門	12. 電算・システム開発部門
3. 企画部門	8. 学事・教務部門	13. 図書部門
4. 人事部門	9. 学生部門	14. 付属関係
5. 会計経理部門	10. 就職部門	15. その他 ()